

大島みらい新聞 No.34

2016年1月22日発行

阪神・淡路大震災、21年目の午前5時46分



高森 順子

(大島みらいチーム、大阪大学大学院博士課程院生)

大島の21年後の3月11日を想像するきっかけに

2016年1月17日、神戸の街は阪神・淡路大震災から21年目の朝を迎えました。神戸では、震災で亡くなられた方々の鎮魂と、復興への願いを込めて、毎年1月17日に地域の各所で慰霊祭が行われます。その中でも、神戸の中心地、三宮の東遊園地という公園で行われる「1.17 希望の灯り」という慰霊祭が、最も大きなものです。

私は今年の1月17日早朝も、東遊園地を訪れ、東遊園地から少し山手に上がった喫茶店でこの記事を書いています。今回、慰霊祭はどのような様子だったかを、感じたままに伝えることができたなら、そしてこの文章が、気仙沼（大島）の21年後の3月11日を想像するきっかけになっていただけならと思っています。

私が慰霊祭会場に到着した時には、多くの人々がろうそくを取り、竹灯籠に火を灯し始めていました。多くの報道関係者もおりましたが、例年より静かに、追悼に訪れた人々に声をかけていたように感じました。まだ暗いなか、竹灯籠で形作られた「1.17」の文字が暖かな光を放っていました。毎年行われている「1.17 希望の灯り」ですが、今回初めての試みもありました。

竹灯籠で、新たに形作る言葉を公募し、例年通りの「1.17」と合わせて、「未来」という文字も作られました。その周りも多くの方々が取り囲み、灯りを見つめていました。

午前5時40分頃になると、アナウンスが流れました。「南側の建物にご注目ください。今年も関西電力さんのご協力で1.17の文字を映していただいております。東遊園地の真南に位置する関西電力のビルは、この時間帯に合わせ、各階の電気を「1.17」の形に点けることで、この慰霊祭に協力をしています。この写真を撮影されている方々もとても多かったです。



1.17を映し出す関西電力のビル

「祈」と描かれた竹灯籠

「絆」といった言葉だけでは言い表せない連帯感

午前5時45分30秒。あと30秒で震災21年目を迎える時がきました。人々は竹灯籠を囲みながら、その時をじっと待ちます。数百人以上がいる空間ですが、この30秒

間は、話し声は聞こえません。ただ、「ピ、ピ、ピ」という時報の音と、ろうそくの炎のパチパチという音だけが響いています。私の目の前にいらっしゃった方は、静かに涙を拭っておられました。

午前5時46分。「黙祷」という言葉とともに、人々は目を閉じ、手を合わせ、それぞれの「あの日」に想いを馳せます。阪神・淡路大震災を体験した人々、体験していない人々、中越や東北で「震災」を体験した人々、皆が想いを馳せる事柄はそれぞれ異なります。それでも同じ空間を共有し、その時を共に迎えることで、「絆」といった言葉だけでは言い表せない一種の連帯感が、ここには確実に生まれています。

10歳で震災を体験した私も、31歳になりました。神戸という街が、震災という大きな出来事とこれからどう向き合っていくのか。これからも見続けていきたいと思えます。



竹灯籠に火を灯す人々



2015.11.28

第一回 エコ&アートで島づくりシンポジウム

今号も前号に引き続き、昨年11月28日に開かれた「エコ&アートで島づくりシンポジウム」の内容を掲載いたします。今号では、彫刻の活動をされている大島中学校校長の菅原裕さんと彫刻家の平泉正司さんの講演内容をご紹介します。

彫刻で島に新たな活気を！

大島中学校校長 菅原裕さん



大島中学校の校長先生であり、また約40年間にわたり彫刻活動をされてきた菅原裕さんに、これまでの彫刻作品や野外彫刻設置の思いについて、ご講演をいただきました。その中から、気仙沼市の彫刻作品や大島と彫刻の関係についてのお話をご紹介します。

気仙沼市と大島の彫刻作品

気仙沼市にも彫刻作品はあり、一つはエスポートに置かれている作品です。それは港町ブルースの歌詞が書かれた記念碑です。残念なことに震災の影響でいろんなところが曲がり、ねじれた状態のままになっており、痛々しく感じます。この彫刻作品をなんとかできないものかと考えています。

エスポートから大島へ渡ると、港付近にたぬ

きの彫刻があります。子どもが小さいときに大島に何度か海水浴に来たことがあり、そのときにたぬきの彫刻があって、子どもがそれを見てすごく喜んでいました。この彫刻にも設置した目的や意味付けがあったのではないかと思います。それがしっかりと伝えられて行かないと、彫刻というものは朽ち果ててしまうのかなと思います。これも残念ながら腕が折れている状態ですので、なんとか再現できないのかなと考えております。



「港町ブルース」の歌詞が書かれた記念碑

彫刻のある大島へ

2018（平成30）年には大島への架橋が実現し、非常に注目される島になるのではないかと思います。そういう中で大島の景色と一体となった彫刻作品があり、島内を散策するとき様々な作品が点在している、そういうものを楽しめる島になってほしいなと感じています。また、郷土の詩人である水上不二の石碑というか、胸像がないので、そういうものをなんとか設置できないのかなと考えています。少しでも私たちが役に立てることがあれば、力になっていきたいと思っています。素晴らしい大島の景観を活かしながら、さらに発展することを願っています。

石の彫刻で被災者に元気を！

彫刻家 平泉正司さん



彫刻家の平泉正司さんには、これまで制作されてきた数多くの石の彫刻についてのご講演をいただきました。その中から、震災の被害に遭われた方たちへの思いから制作された石の彫刻についてのお話をご紹介します。

震災後の活動

私は手のひらに収まる高さ8cmくらいの「手のひら地蔵」というものをこれまで約1000体作り、ご家族を亡くされた方に配ってきました。同じ県内に住みながら、私にできるのは何だろうと考え、人に心の安らぎを届けることだと思い、このお地蔵さん作りを始めました。

女川の七十七銀行では行員の方々が流されたのですが、ご遺族の方たちから何か記念碑として残るようなものを作って欲しいと依頼があ

り、行員の男女の像を作りました。モデルにした方はおりませんが、その背中に「語り継ぐ命」と彫りました。やはり亡くなられたご家族は最後に何かしてあげたいという思いがあり、お墓を建て、私のお地蔵さんを置いていただくこともありました。

これは石で作ったグローブですが、震災で亡くなられた息子さんが野球部でキャッチャーをしていて、その息子さんのために特注で作ったグローブだけが手元に残ったということです。それをどうしても形見としてお墓に置きたいということで、本物と同じ物を石で彫りました。



グローブの石の彫刻

彫刻を作る理由

なぜ私が彫刻家になったのかと言いますと、好きで続けてきたということもありますが、買っていただいた人にとって大切なものとなり、喜んで買ってもらうことが、作ることの継続性の力になっています。もちろんお金がないと生活が出来ませんが、お金があればいいのかという問題でもありませんし、この仕事をする中で自分自身が癒されるという感じはあります。私も菅原先生のように、将来は先生になりたいと思っていました。でも、彫刻という好きなことができていたので、今はとても幸せな人生を送れているのかなと思います。

フードコーディネーター

川島洋子さんと大島の菓子作り研修会

2015年12月21日(月)、浦の浜港の「喫茶去」にて、フードコーディネーターの川島洋子さんと共に、大島の菓子作り研修会を行いました。

川島講師には11月に大島カブや大島のユズを渡して、その後、取組みの現状や課題、目標を話し合ってきました。ユズジャムなどを試作し、苦み対策には事前に加熱することをアドバイスして頂きました。

川島講師からは、ご自身が開発された「リンゴの甘納豆」「林檎のけんぴ」「リンゴのクッキー」を紹介され、それぞれの特徴を説明して頂きました。

リンゴの菓子を参考に、ユズやカブを使った焼き菓子、スティック、チップスができないかを話し合いました。また、喫茶「去」



の大島カブのカルボナーラ、がんづき2種を試食し、肉類、チーズや牛乳と合うことを確認しました。カブ商品の強みは希少性(珍しさ)にある半面、知名度がないことが弱みです。どう克服するかが難しいところですが、マスコミから協力いただいてはどうかという話も話し合いました。



川島さんからのコメント

商品開発はFCP展示会・商談シートに書き込めるようにするのが基本です。商品名、商品情報、どこで、誰に、数量はいくら売るか、書き込めるまでやりましょう。島の資源を新鮮な視点で発掘・評価し、「カブ主」を増やして収穫体験、共同・交流調理(グリーンツーリズム)を目指しましょう。

川島さんからのアドバイス

- 1、大島カレーのカブは上にトッピングした方が、カブと分かりやすいし、きれいな橙色が活かせます。レトルトカレーや冷凍のカレーはお勧めできません。
- 2、大島カブ、大島北限のユズのがんづきは美味しいが日持ちが悪いので、島内で食べられるようにしましょう。



次回のお知らせ

川島講師と一緒に大島カブのスティックとチップスを作ります。和菓子用の餡を白小豆を入れて作ります。

日程：1月28日(木) 11:15～

会場：民宿みかみ

主催：気仙沼・大島みらい創り協議会 堺健

子どもたちは、夢や可能性を遊びの中で育む

保育士なのですが、震災の次の年からこちらの児童館でお世話になっています。私は気仙沼市内に住んでいるので、毎日船で通勤しています。美希恵先生は島に生まれ島で育って、今年の4月から一緒に児童館の仕事をさせてもらっています。

-今日はイベントをされているようですが、このようなイベントはよくされているのですか？

そうですね。乳幼児の親子が遊ぶ日と、小学生の親子が遊ぶ日、それと地域の人みんなが参加できる世代間交流の日があります。小学生は月に一回とか二回、世代間交流は一年に何回というように、定期的にイベントをしています。いつもは午前と午後で20人くらい来てくれています。

-震災からもうすぐ5年ですが、震災前と震災後で子供たちに大きな影響や違いを感じたりしますか？

当時、私は保育所にいたのですが、その後児童館に来たときにはそんなに違いは感じませんでした。震災では、それぞれいろんな状況だったと思いますが、ここだとみんながいるから安心できるのではないかな、と思います。遊ぶと元気になるし、児童館でみんなで関わりあっていくような活動が大事なかな、と思います。

-未来に向けて、子供たちにこういう風に育って欲しいな、という思いはありますか？

小さいころから人と関わって、遊びを楽しむことを経験した子どもたちは、夢とか可能性を遊びの中で育むことができると思います。だから、今ここで遊んでいる時間とか、関わっている時間をより多くの子供たちに味わってもらって、それぞれの道に進んでいければいいなと思います。大人になってここで会う人たちも多いんです。大人になったときに、自分の子どもを連れてここへ来て、会話が弾んだりして。温かい場所だなと感じます。

-大島自体がこういう島になって欲しいとか、願いはありますか？

大島の子どもたちは、未来の大島について話し合うこともあるようで、感心しています。その子たちが大きくなって、それぞれの仕事などを大事にしていけば、次の世代に大島のよいところを渡すことができるのではないかな、と思います。大島では、大人と子どもが関わる人が多いので、それが将来の夢につながることもありますよね。

-今日はお忙しいところありがとうございました。

(取材：有田、伊藤)

沼島と大島

ハモすき
くにうみ神話
奇岩クルーズ



沼島(ぬしま)は、淡路島の南に浮かぶ兵庫県南あわじ市に属する島です。瀬戸内海国立公園の一部であるこの島の視察から大島の観光、慰霊碑のあり方について考えてみましょう。

大島の未来を考える会

日時：2016年2月7日(日)

13:30～15:30

場所：大島開発総合センター2階

共催：気仙沼大島みらいチーム

大島地区自治会連絡協議会

参加無料

予約不要

誰でもお気軽に、ご参加ください!

アートで地域を健康に

人との関係に着目した地域デザイン



東日本大震災慰霊碑

講演者：行成美和(ゆきなりみわ)

甲南女子大学文学部メディア表現学科専任講師。アートと地域そして、人との関係に着目した地域デザインに関する研究を行う傍ら、多岐に渡るクリエイティブなフィールドにて活動。

近年では、代官山インスタレーション 2011 最優秀賞受

龍神様のプランターの里親に

なっただけの方を募集しています。

プランターに花を植えて

大島を彩りませんか？

連絡先：080-3107-0692(小松昌平)

里親募集中!!

連載コラム

大島人 OSHIMA-JIN

大島で生きる人のここだけの話

第17回 大島児童館 インタビュー

菅原 美希恵 さん 菅原 みつえ さん

インタビューの受け答えは、菅原みつえさんがして下さいました。

-児童館でお仕事を始められたきっかけを教えてください。

この児童館は、10年前に小学校の空き教室を改装して始まりました。自由に来館してもらって、子どもたちが自由に遊んでいます。私は、もともとは